

ハウレーカ!

なるほど、そうか

第45回

全てのゴルフはゴルフ

— 小規模施設はゴルフ振興のフロントライン —

喜田任紀

なぜ小規模施設か

今回は9ホール以下のゴルフ場を含めた小規模ゴルフ施設の話です。R&A（正式には「The R&A」）は、2023年10月に「小規模ゴルフ場施設開発ガイド（GOLF FOR SMALLER SPACES A GUIDE）」を発表しました。R&Aはこのガイドの中で、「小規模ゴルフ施設はゴルフへの参加者を増やし、ゴルフが発展するために非常に重要です」と指摘しています。内容は、小規模ゴルフ施設とあるように9ホール規模のゴルフ場だけでなく、ゴルフ練習場やもつと小規模な遊びの要素の強い施設を含めたまとめられています。そして、英国には9ホール規模のゴルフ場が約700コースあるそうです。

ゴルフ専門誌からベスト100も選定されています。

米国はどうでしょう。NGFの調査では、2020年時点で3777の9ホールのゴルフ施設があり、全ゴルフ施設の約26%を占めていると報告されています。そして、全ゴルフファターの66%が9ホールのラウンドを経験しているそうです。1974年までは、18ホール以上のゴルフ場よりも9ホールのゴルフ場の方が多かった。

では日本です。残念ながら最新のデータがありません。経済産業省が実施していた特定サービス産業実態調査では平成16（2004）年度までは集計されていたのですが、それ以降は統計がありません。2004年時点では17ホール以下の施設数が132、この内9ホール以下が25コースとなつています。ざっと1%程度です。現在ではその数の把握もできないわけですが、背景には、高額な建設費や会員募集といった社会経済性の問題は現在もあるでしょうが、18ホ

ールという数字にこだわってきたゴルフ業界の常識も関わってきたように思います。

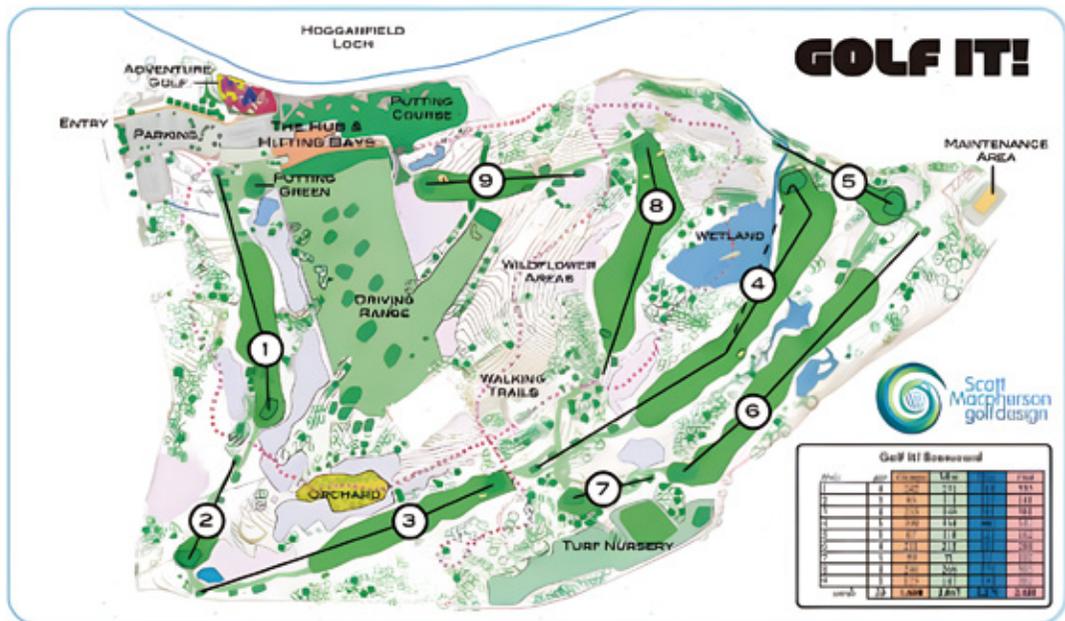
しかし、ゴルフ振興が叫ばれる昨今、初心者、特に女性のゴルフアートを増やそうと考えると、いきなり18ホールのゴルフコースではなく、9ホールやもつと小規模なゴルフ施設が必要不可欠です。JGAのゴルフ振興の標語は「Golf is Good!」ゴルフっていいね!ですが、まずは、「ゴルフは楽しい!」と感じてもらおうことがゴルフアートを増やし、継続してもらおう切っ掛けだと思います。

そこで、R&Aの発想を紹介したいと思います。ゴルフ文化の違いや経済的背景を思いつつ、あつたらイイナと思える内容です。

R&Aはこう考えている

R&Aの前CEOのマーチン・スランバートさん（現在のCEOは40代の方だとお伝えしましたっけ）がこのガイドでこう語っています。





「R & Aのビジョンは、ゴルフをすべての人に開かれたものにするこ
とです。ゴルフが50年後も繁栄し続けるため
には、ゴルフの魅力を広げ、あらゆる背景を
持つ人々を心から歓迎し、すでにゴルフを
プレーして
いる人々や
現在ゴルフ
クラブの会
員である人
々よりも、
はるかに幅
広い人々が
ゴルフを
楽しめるよ

うにする方法を見つけなければなりません。

ゴルフを人々が住む場所に届けることがとても重要なのです。既存の、そして多くの場合で会員制のゴルフクラブで初めてプレーすることを期待するのではなく、より幅広く多様な参加者のニーズに合致する、ピッチアンドパット、ミニゴルフ、中級コース、3ホール、6ホール、または9ホールのゴルフ場など
の利用を拡大する。これら多様な小規模ゴルフ施設が数多くあれば、都市部や都会のより多くの人々がプレーするのに便利な環境が誕生します。どうでしょう。大切にしたいのは、まずはこの発想ですよね。

R & Aがこの発想からグラスゴーの市街地とってよいと思
いますが、中心地から5キロほどの場所に開設した小規模施設がGOLF IT!です。スランバートさんが語ったR & Aの発想を形にしたとってよいと思います。元々は市営のゴルフコースだった用地に新しく建設しました。

ほとんどとってよいと思
いますが、たくさんさんのゴルフ施設が設置されたゴルフの複合施設です。

GOLF IT!紹介

ガイドの施設紹介文をそのまま訳しますが、GOLF IT!は、グラスゴーに2023年8月にオープンしました。R & Aがこのタイプの施設を所有するは初めてのです。元々は、荒廃して安全上の懸念がいくつかあった古い18ホールの市営ゴルフコースの跡地に作られました。R & Aは、ゴルフにアクセスしやすく、手ごろな価格で、地域に根ざしたゴルフにするために、新しくエキサイティングなゴルフ施設を作りたいと考えていました。これを実現するために、GOLF IT!には、パッティングコース、アドベンチャーゴルフ、中級ゴルフコース、ハイテクドライビングレンジなどの短縮形式のゴルフ施設が含まれています。9ホールのゴルフコースは「ハブ」機能を持たせて設計されて

いるため、コースを短縮して5ホールコースとして設定することもできます。

これにより、GOLFTEIは、ゴルフファーが50分で5ホールをプレーし、1時間以内でゲームをプレーできる「5in50」などの新しい取り組みを行うことができます。また、GOLFTEIは、ドライビングレンジとコースを備えたゴルフトレーニング施設でもあり、プロが常駐しており、あらゆる年齢のゴルフファーがゴルフを始めたり、ゲームを上達させたりできるようにサポートします。森林、湿地、野生の花が咲くエリア、ウォーキングコース、果樹園を備えたGOLFTEIは、ゴルフを広めるための温かく居心地の良い持続可能な場所として設計されており、オープン以来非常に人気があります。2024年にこの施設は国際的な評価を獲得し、環境と社会への責任と持続可能なゴルフにおけるリーダーシップへの取り組みが認められ、GEO Certified®を取得しました。

次の図は、ガイドの中で小規模ゴルフ施設の種類の関係性をまとめたものです。これらはすべてゴルフですと言っているわけですが、どんな施設か？ パーティングコースからバーチャルゴルフシミュレーター、ドライビングレンジからピッチ&パット、9ホールゴルフからチャンプイオンシップコースまでのすべてのゴルフはゴルフです。



この考え方は、ゴルフファーをどう捉えればいいのかという基本的で重要なポイントです。日本でゴルフの区別はアマチュアとプロ、ジュニアやシニア、女性ゴルフ、クラブメンバー、ノンクラブゴルフという

いろいろありますが、米国のNGFが採用している区分のひとつに、On CourseとOff Courseがあります。R&Aのセミナーで調査会社のSporting Insights社がレポートをまとめていましたが、レポートのゴルフ人口は日本では考えられない、「日本では現在940万人の大人、360万人のジュニアがゴルフに親しんでいる」という内容がありました。この調査の根拠は、このガイドでもいつているすべての種類のゴルフを楽しんでいるゴルフファーです。Sporting Insights社はNGFと同じOn CourseとOff Courseの参加人口をゴルフ人口としているようです。同社によると、ゴルフマーケット大きく捉える」とこの数字になるのでしようが、2021年の社会生活基本調査のゴルフコースと練習場の利用者人口は774万人です。この差が、日本人の考えるゴルフの定義とR&Aの考える定義の差なのかもしれません。このゴルフ市場に成長戦略を考

る上で重要な気がします。R&Aの発想を取り入れれば人口減少社会にあつて更なるゴルフ市場の拡大が見えてきます。そのためには、すべてのゴルフをゴルフと捉え、すべてのゴルフを楽しむ人たちがゴルフファーとして、最終消費地としてNGFのいうOn Courseへとつなげる。こう考えると日本のゴルフの未来も光が差してきそうです。

そのためには、供給側の体制整備とすべてのゴルフを対象とした戦略の再構築が必要です。JGAの発表している中期事業計画をもう少し対象を広げて、すべてのゴルフを網羅したOn Courseへのロードマップを戦術レベルに落とし込んで、各団体の担当を明確にして、常にアップロードするシステムを構築すればいいのです。と、いうのは簡単です。実際には結構難しいと思います。各団体、関係者が同じテーブルにそろって、同じベクトルで議論し、対策を練って、実行し、評価して次につなげるゴルフ業界にPDCAを



回すことになる、はず。なお、このガイドはR&AのホームページのDownloads and PublicationsからGolf For Smaller Spaces Guideを選択して、Saveでダウンロードできます。世界での成功事例も取り上げられており、日本のゴルフ関係者の参考になる資料です。コース設計者もコース改造のプランの

一つに採用できる内容になっています。

9Hコースをめぐる話題

ガイドでも紹介されていますが、マスターズが開催されるオーガスタナショナルの9ホールコースは有名ですが、話題を呼んだのがアトラクタのボビー・ジョーンズの名を冠したゴルフコースです。元の18ホールにコースは、1932年にオープンしたアトラクタで最初のパブリックゴルフコースでしたが、たった25ドルの値もなかったと酷評されていました。そのコースが、9ホールのリバーシブルなレイアウトとなって生まれ変わったわけ。

再開発によって、最新式のドライビングレンジと屋内教育施設、ショートゲーム用の練習場と、そしてこのプロジェクトにボランティアで参加したコースデザイナーの故ボブ・カップに敬意を表して命名された6ホールのショートコース「Cupp Links」が設けられています。

スポンサーシップをとっているなど話題も多いのですが、練習施設を利用する障がい者ゴルフ向けに1週間に六つのプログラムがあり、めぐまれない子供たちをゴルフに触れてもらうために週2回メトロアトラクタYMCAの活動に利用されているそうです。

最後に今回紹介したR&Aのガイドのまとめの文から、「ゴルフはどれもゴルフです。ゴルフという幅広いゲームの中で、ゴルフへの愛を育むための出発点はひとつではありません。重要なのは、人々がゴルフを楽しむ場所を作ることです。小さなスペースのゴルフ施設は、練習、プレー、スキルアップの機会を増やします。また、人々は活動的になり、社交的になり、楽しい経験をすることもできます。小さなゴルフ施設は、最終的にはゴルフにとって最も重要な場所になるかもしれません」で本稿のまとめです。

※BOBBY JONES GOLFCOURSEサイトアウト図は同コースホームページより